

月7日にフリアリット-2インプラント (Friadent) を2本埋入, 2000年7月27日, 同部位に結合組織移植を行い, 同年11月7日, この2本のインプラントを支台としたブリッジを装着した。

【結果と考察】患者は本症例の補綴処置に審美的にも機能的にも満足している。インプラントの治療に限らず, 確立された治療の順序と治療計画のプロトコールに従えば, 歯科治療は, 予知性を備え, かつ高い成功率を得ることができる。本症例は術前診査でCTスキャンからの情

報をコンピュータで処理し, 3次元構築した画像上でインプラント埋入位置のシュミレーションを行った。X線フィルムだけの情報では, インプラントを埋入し, 機能させるために必要な骨の量を評価するに過ぎない。しかし, 補綴の要件を考慮したインプラントの埋入位置を決定するために, 3次元構築による画像診断は, 有用性が高いと思われた。また, 本症例からインプラント補綴において, 歯槽部骨頂の幅と垂直的骨量は, 歯冠形態に制約に与える大きな要素であることが再確認された。

10. HAコーティングインプラント1,175本の臨床的検討 —特に撤去原因について—

○佐藤 友昭, 田中 収, 舞田 健夫
(北海道医療大学医療科学センター)

【目的】北海道医療大学医科歯科クリニックでは, ハイドロキシアパタイトをチタン表面にプラズマ溶射したHAコーティングインプラントを臨床応用し, これまで本学会でもその優れた臨床成績を報告してきた。今回は, 応用開始後9年6ヶ月間で埋入した1,175本のインプラントについて, その臨床成績に加え, 撤去に至ったインプラントの原因, 喫煙との関連などについて検討した。

【方法】北海道医療大学医科歯科クリニックにおいて, 1991年5月から2000年11月までに男性103名, 女性159名, 計262名の患者に対して1,175本を埋入した。使用したHAコーティングインプラントはCalcitek 1,058本, Steri-Oss 117本である。患者は上部構造装着後6ヶ月ごとにリコールし, パノラマX線検査を含む定期検査を行った。これらの全症例について, 埋入患者の年代, 部位, 埋入インプラントの幅径, 長径を調査し, 単純残存率を求め, さらに, 生命表分析にて累積残存率および累積成功率を求めた。また, 頸部の経年的な骨吸収量をパノラマX線写真にて計測した。

喫煙とインプラントの失敗及び骨吸収との関連も検討した。

【結果と考察】撤去, 脱落に至ったインプラント数は33本であるため, 単純残存率(残存数/埋入数)は97.1%, 生命表分析による累積残存率は91.36%であった。撤去の時期は, 2次手術時に骨結合が得られなかったものが5本であり単純残存率は99.57%, 補綴後は97.1%であった。さらに頸部の骨吸収量が2.5mm以上に進行したインプラントを失敗とみなして算出した累積成功率は88.96%であった。

次に撤去に至ったインプラントのリスクファクターについて分析した。部位別では, 下顎前歯部は100%の残存率であり, 他の部位は97%前後で殆ど差は認められなかった。上下顎別でも, 差が認められなかったが, 下顎のほうがわずかに良好であった。幅径・長径別では, 長さや成績に相関が認められ, 短いインプラント, 特に8mmの成績が有意に低かった。幅径別では, 細い方が, 成績がやや低かった。喫煙に関しては, 撤去したインプラント症例に喫煙者率がやや高い傾向が認められた。また非喫煙者と比較して, 喫煙者の頸部骨吸収量の方がわずかに大きい傾向が認められた。

11. バイコンインプラントを用いた補綴臨床

○斉藤 成彦, 伊藤 仁, 伊藤 晴恵,
白井 伸一, ビンセント J. モーガン
(歯科オムニデンティックス)

【目的】歯列に欠損がある患者の咬合再構成を行う際, その欠損部の補綴処置が治療の成否の大きな要因を占め